

# 組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名:

大学院社会文化科学研究科

部局長名:

田中共子

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<p><b>①-1 目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について 平成30年度の改組における教育改革を着実に実行する準備を進める。高度人材育成に重点を置いた教育プログラムの構想を精緻化する。全学の国際化の歩みと連携を取りながら、留学を組み込んだ教育システムをデザインし、外国語による教育のプログラムを新設する計画を立てるなどして、教育の国際化の前進をはかる。</li> <li>・教育方法・内容について 効果的な大学院教育の方法を積極的に探る。IT活用を促進し、社会人学生の履修環境の向上などに活かす。大学院レベルの導入教育について検討し、共通科目や必修科目の整備と活用を進める。 60分授業・4学期制への移行における具体的な障害を明確にし、克服のための具体策を検討する。</li> <li>・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について 修了生の卒業後の連絡体制を強化して、修了生の進路状況の調査を実施する。</li> <li>・学生支援について 大学院生の教育をより広い枠組みでとらえ、ニーズに合わせた教育の機会を設ける。就職への心構えや知識を養うため、キャリア教育に焦点をあてた講義を新設する。ハラスメント防止のための教育の機会を提供する。</li> <li>・文芸部、法学部、経済学部と共同で開設している学生相談室を活用して、学生支援を進める。</li> <li>・国際共同による教育の状況について 東アジア国際協力・教育研究センターを中心に、協定校の増加と交流の拡充をはかり、国際共同による教育を実施する。</li> <li>・外国人留学生の受入状況について 大学院予備教育特別コースと連携して、コース受講生の本研究科への正規入学を支援し、留学生受け入れの実績を積み重ねていく。</li> <li>・その他 改組に合わせて入試の再検討を行う。大学院入試において学力の3要素(思考・判断・表現)を多面的・総合的に評価する入学者選抜に関して、議論を開始する。 全学で推進している「ストライプ・プロジェクト」と連携しながら、大学院の実践型教育について検討を進める。</li> </ul>	<p><b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について 平成30年度改組における教育改革を実施すべく、高度人材育成に重点を置いた教育プログラムの構想を精緻化し、外国語による教育のプログラムを新設し、留学を組み込んだ教育システムをデザインするなど、教育の国際化の前進をはかった。</li> <li>・教育方法・内容について 必修科目として「社会文化学基礎論」(1・2)を開講し、研究倫理などについて導入教育を行うとともに、WebClassに講義の配布資料と講義そのものの動画を置いて、社会人学生の履修環境の向上に活用した。</li> <li>・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について 修了生の進路状況について電子メールの一斉送信を用いた追跡調査を開始した。</li> <li>・学生支援について キャリア支援科目「博士前期課程学生のためのキャリア・デザイン」(平成29年度前期)の開講やキャリア・ガイダンス「博士人材が活躍する業界・仕事研究会」(平成29年10月27日)の開催を通じて、大学院生のためのキャリア教育を推進した。 ハラスメント防止対策室のリーフレット「ゼロハラ宣言：「さよなら」ハラスメント」について、電子メールの一斉送信を用いて在学生に周知した。</li> <li>・国際共同による教育の状況について 文芸部、法学部、経済学部と共同で開設している学生相談ルームを活用して、学生支援を進めた。</li> <li>・外国人留学生の受入状況について 大学院予備教育特別コースと連携して、コース受講生の本研究科への正規入学を支援した。</li> <li>・その他 改組に合わせて入試の改革を行い、外国語の外部検定試験を導入し、小論文の枠を拡大した。 社会文化科学研究科(経済系)藤井大児准教授が「ストライプ・プロジェクト」に委員として参加した。</li> </ul>
<p><b>①-2 全学の組織目標との関連</b></p> <p>1①教育研究組織改革の推進、1②学びの強化のための諸施策の実施、1③高大接続・入試改革の検討、1④全部局の学生派遣・留学生受け入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成、2企画・総務④ハラスメント防止体制の強化、2教育①学術情報・設備・環境を活用した学習・教育体制の強化、2教育③総合的支援、2教育④学修環境・学術情報環境の整備、2研究④産学連携活動の推進、2社会貢献・国際①おやかや地域発展協議帯等を通じた積極的な事業展開、2大学改革①大学改革の着実な実施</p>	<p><b>①-2 大学全体への貢献</b></p> <p>・改組計画の実施により、1①教育研究組織改革の推進、1②学びの強化のための諸施策の実施、1③高大接続・入試改革の検討、1④全部局の学生派遣・留学生受け入れプログラム並びに体制の強化・充実に基づく数値目標の達成、2大学改革①大学改革の着実な実施に取り組んだ。 ・必修科目「社会文化学基礎論」(1・2)、キャリア教育、電子メールの一斉送信、学生相談室、地域公共政策関連科目などを通じて、2企画・総務④ハラスメント防止体制の強化、2教育①学術情報・設備・環境を活用した学習・教育体制の強化、2教育③総合的支援、2教育④学修環境・学術情報環境の整備、2研究④産学連携活動の推進、2社会貢献・国際①おやかや地域発展協議帯等を通じた積極的な事業展開に取り組んだ。</p>
<p><b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>改組後教育プログラムの内容、IT活用企画の数・履修者数、大学院導入科目の数・履修者数、シラバス、進捗状況の集計、就職率、キャリア教育授業の開講回数・履修者数、ハラスメント防止教育の機会数、学生相談室利用者数、留学関連プログラム、協定校の数、受入留学生数・留学生率、派遣留学生数、大学院予備教育への協力件数、大学院予備教育特別コースの入試と教育の協力件数、大学院予備教育特別コースからの受験者数・入学者数、大学院生における日本人・外国人・社会人の構成</p>	<p><b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <p>【※以下、すべて平成30年3月20日現在】改組後教育プログラムの内容(資料①-3-1)、IT活用企画の数・履修者数(「社会文化学基礎論1・2」計4科目、16回、総履修者数203人)、大学院導入科目の数・履修者数(「社会文化学基礎論1・2」計4科目、16回、総履修者数203人)、シラバス(資料①-3-2)、進捗状況の集計(博士前期課程から博士後期課程への内部進学者4人)、就職率(博士前期課程42/69人、61%。博士後期課程3/8人、38%)、キャリア教育授業の開講回数・履修者数(「博士前期課程学生のためのキャリア・デザイン」16回、14人)、ハラスメント防止教育の機会数(1回)、学生相談ルーム相談件数(社文研2件/総数168件)、留学関連プログラム(資料①-3-3)、協定校の数(平成29年度は1件増、現在38件)、受入留学生数・留学生率(博士前期課程37/84人、44%。博士後期課程6/10人、60%)、派遣留学生数(博士前期課程3人、博士後期課程1人)、大学院予備教育への協力件数(「社会文化学基礎論1・2」計4科目)、大学院予備教育特別コースの入試と教育の協力件数(「社会文化学基礎論1・2」計4科目)、大学院予備教育特別コースからの受験者数・入学者数(受験者4人、合格者4人)、大学院生における日本人/外国人/社会人の構成(博士前期課程52/81/60人、博士後期課程8/25/23人)。</p>
<b>②研究領域</b>	
<p><b>②-1 目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究水準及び研究成果等について 研究の量と質の向上および成果発信のため、以下を行う。研究科内で公募型の研究助成を行い、学生と教員の共同研究を促し、成果を積極的に発信する。研究科紀要の電子化を進め、webによる発信体制を強化する。研究推進と地域貢献の機能を融合させて新たに研究交流推進委員会を立ち上げ、研究活動の把握と研究振興策の議論を進める。</li> <li>・研究実施体制等の整備について 地域特性を活かした異分野融合の研究拠点を創出し、学内外と連携をとりながら研究力を強化して、研究交流を推進するため、平成31年度設置を目標に「吉備みらい研究所」の構想を進める。</li> <li>・国際共同による研究の状況について 全学UGAと協力しながら、東アジア国際協力教育・研究センターのコーディネートのもとで国際共同による研究の展開をはかる。</li> <li>・女性・外国人研究者の受入状況について 協定校との交流や国内外の共同研究などを基盤に、女性・外国人研究者を積極的に受け入れる。</li> <li>・外国研究機関における研究従事状況について 国際プログラムの検討などを通じて教育研究交流を推進し、外国研究機関における研究従事者の環境整備を進める。</li> <li>・その他 「吉備みらい研究所」の構想において、RA制度や研究プロジェクトなど、若手が育つ仕組みを工夫し織り込む。</li> </ul>	<p><b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究水準及び研究成果等について 研究科内で研究助成3件、教育助成3件を募集し、採択した。報告書を平成30年3月20日に提出。 研究科紀要の電子化を行った(URL: <a href="http://www.okayama-u.ac.jp/user/hss/research/kiyou.html">http://www.okayama-u.ac.jp/user/hss/research/kiyou.html</a>)。 平成29年度までの科研費採択結果について、データの分析・整理を行い、講座単位の科研費獲得状況表(資料②-1-1、②-1-2、②-1-3)を作成した。 「H29年度岡山大学若手トップリサーチャー」(小塚真啓)、「若手研究(B)」における独立基盤形成支援(試行)「齋藤圭介」の公募支援を行い各1人が獲得。</li> <li>・研究実施体制等の整備について 博士課程改革WGを立ち上げ、「吉備みらい研究所」構想について検討を行った。検討の結果、「吉備みらい研究所」は「文明動態学研究所」と名を改め検討を継続した。研究所に附設する博物館構想についても検討を行った。平成30年2月24日には文明動態学シンポジウムを開催し、平成31年度の研究所設置(資料②-1-4)へ向けた具体的な行動を開始した。メンバーに卓越研究員を織り込む準備を進めた。</li> <li>・国際共同による研究の状況について 公益財団法人山陽放送学術文化財団第54回(平成28年度)学術研究助成に基づくプロジェクト「野崎家文書の研究—岡山の東アジア交流に関する新史料の発掘—」(代表者:遊佐徹、安田卓:土屋洋を進め、国際共同による研究の展開をはかった。シンポジウム「瀬戸内の塩が育んだ近代東アジアネットワーク—児島・野崎家—」と「書画—」を開催した。</li> <li>・女性・外国人研究者の受入状況について 女性・外国人研究者の受入を行った(資料②-1-5)。</li> <li>・外国研究機関における研究従事状況等について 教員一名が北京日本学術センターへ集中講義(日本文化特殊研究)のため国際交流基金により派遣(文学系:本村昌文、2017年12月13日-2018年6月)。 シンガポール国立大学、川崎汽船、上組、ナカンマプロペラの各現地法人等訪問;海外特別研修プログラム(シンガポール)の構築検討中、研修内容を上記相手先と検討、調整した。(経済系:村井淨信、津守貴行)。 トリノ大学と合同で2018年8月末ごろに1週間程度のサマースクールを準備中。トリノ大学と岡山大学の考古学を中心とした共同研究プロジェクトの実績を作り、MARIE SKŁODOWSKA-CURIE RESEARCH AND INNOVATION STAFF EXCHANGEにトリノ大学とプロジェクトを申請する方向を目指す(文学系:松本直子)。 ポルドー・モンテニュー大学および他のDEFLE関連機関とフランス語教育実習生受入の強化・拡大、教育および教育技術研修連携強化へむけた交渉中(文学系:Loïc Renoud,萩原直幸、延味能都)</li> <li>・その他 「文明動態学研究所」のメンバーに卓越研究員を織り込む準備を進めた。 新たに生じた課題への対応として、科研費の申請・受給状況に講座ごとの偏りが認められことに対して、H30年度も科研費講習会を開催するなど改善策を検討した。</li> </ul>

<p><b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>1④研究大学「岡山大学」の構築、1⑤若手研究者の育成事業の推進、1⑧効率的かつ戦略的な予算配分と経費削減、2研究①外部研究資金獲得の推進、2研究②学内共同研究支援施設の充実、2大学改革①大学改革の着実な実施</p>	<p><b>②-2 大学全体への貢献</b></p> <p>1④研究大学「岡山大学」の構築、1⑤若手研究者の育成事業の推進、1⑧効率的かつ戦略的な予算配分と経費削減、2研究①外部研究資金獲得の推進、2研究②学内共同研究支援施設の充実、2大学改革①大学改革の着実な実施、の項目へ貢献した。</p>
<p><b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>研究科内研究助成募集要項・応募数・採用数・HP記事・電子紀要目次・アクセス数、吉備みらい研究所の構想と仕組みの概念図、国際共同研究の女性・外国人の研究者・研究員の受入数、外国人教員の数・比率、女性教員の数・比率、外国研究機関での研究従事者の状況、学内・国内・国際共同研究数、論文・著書等の研究業績数、学会等での発表数、受託研究数、科研費・寄付金・競争的外部資金受入数、寄付講座数</p>	<p><b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <p>研究科内研究助成募集要項・応募数・採用数(メールにて送信周知)、HP記事・電子紀要目次(上記記述にアドレス記載)、文明動態学研究所の構想と仕組みの概念図(資料②-1-4)、女性・外国人の研究者・研究員の受入数(資料②-1-5)、外国人教員の数・比率、女性教員の数・比率(女性:約23%、男性:約77%; 外国籍:約7%、日本国籍:約93%、学内・国内・国際共同研究数、論文・著書等の研究業績数、学会等での発表数、科研費・寄付金・競争的外部資金受入数(資料②-1-3、②-3-1))</p>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p>	
<p><b>③-1 目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会との連携、社会貢献について 研究推進と地域交流を機能統合させた研究交流委員会を設置して、研究と社会との連結を強化する。研究科教員による公開講座を計画するなどして、学術の成果を広く市民に届ける。地域経済界や自治体との連携をほかり、地域貢献とそのための高度人材の育成を推進する。</li> <li>・国際交流・協力について 東アジア地域を中核としながらより広域の交流を視野に入れるため、国際交流を担う委員会編成を見直し、交流体制を強化する。協定校を軸に交流を進め、特に台湾の大学とは新規の交流を立ち上げる。改組を機に、留学生を主体に運用してきた「東アジア共生プログラムコース」を、対象地域を拡大し日本人学生との混合クラスを基本とした「多文化共生プログラムコース」へと拡充する計画を進める。</li> <li>・その他 スーパーグローバル・ハイスクール(SGH)の指導などを通じて、大学院として高大接続に積極的に関わること。</li> </ul>	<p><b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会との連携、社会貢献について 地域創生ネットワーク・アゴラと連携して、研究と社会との連結を図るとともに、学術の成果を広く市民に届けた。また、地域経済界や自治体と連携し、地域に貢献する高度人材を公共政策コースを中心に育成した。また、3月3日に、市民向けに「大学院社会文化科学研究科文明動態学シンポジウム モニメントから見る文明動態論」を開催した。</li> <li>・国際交流・協力について 東アジア地域を中核としながらより広域の交流を視野に入れるため、東アジア国際協力・教育研究センターと国際交流委員会を合同で開催し、交流体制を強化した。協定校を軸に交流を進め、特に台湾の協定大学(淡江大学、国立嘉義大学)とは交流プログラムを拡大した。改組を機に、留学生を主体に運用してきた「東アジア共生プログラムコース」を、対象地域を拡大し日本人学生との混合クラスを基本とした「多文化共生プログラム」を改組に盛り込んだ。</li> <li>・その他 城東高校、操山高校、金光学園 (SGHアソシエイト)の指導などを通じて、大学院として高大接続に積極的に関わった。</li> </ul>
<p><b>③-2 全学の組織目標との関連</b></p> <p>1③高大接続・入試改革の検討、1⑥実践型社会連携教育の推進、2研究④産学連携活動の推進、2大学改革①大学改革の着実な実施</p>	<p><b>③-2 大学全体への貢献</b></p> <p>1③入試改革を実施し、高度人材プログラムでの小論文による入試を拡大するなど、社会人への門戸を広げた。1⑥地域創生ネットワーク・アゴラと連携して実践型社会連携教育を推進した。2大学改革①大学改革の課題を着実に実施した。</p>
<p><b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組</b></p> <p>研究交流委員会開催数、一般向け公開講座等の状況、HP・メディアによる教育研究の発信、地域と連携して行われる授業の数・履修者数、自治体や団体との教育研究連携、大学による地域活動への協力、海外協定校数、国際交流・国際貢献の件数、台湾との交流状況、共生プログラムコース履修モデル、SGHなどによる地域教育機関への協力状況</p>	<p><b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <p>3月3日に、市民向けに「大学院社会文化科学研究科文明動態学シンポジウム モニメントから見る文明動態論」を開催した。H29年7月およびH30年2月の定例記者会見で教育研究の発信を行った。協定校を軸に交流を進め、特に台湾の協定大学(淡江大学、国立嘉義大学)とは交流プログラムを拡大した。大学院博士前期課程を改組し、新しいプログラムで教育を開始する準備を整えた。高大連携事業の一環で、SGH校(城東高校、操山高校、金光学園)への協力を促進した。</p>
<p><b>④管理運営領域</b></p>	
<p><b>④-1 目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部局運営体制の改善強化について 大学院の委員会構成を見直し、現在の業務構造に対応した機動力の高い委員会へと再編する。</li> <li>・部局組織の活性化について 改組における教育プログラムの実質化、「吉備みらい研究所」の構想立案といった、新たな潮流の創出に携わるワーキンググループを設け、活発な議論と豊かな発想を共有する場として、創意工夫を促す。</li> <li>・ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について ウーマンテアトラック制度の利用を検討し、ダイバーシティの推進を図る。改組における国際化の推進を具現化する過程で、外国人教員による授業や外国語による授業を充実させ、外国人教員を増やす計画と運動させていく。</li> <li>・効率的・戦略的な予算配分・執行について 改組案に織り込まれた教育プログラムの準備のため、研究科内に公募型助成金を設置する。</li> <li>・安全衛生に対する配慮について 海外留学における危機管理マニュアル等を作成するなど、海外に派遣する大学院生の危機管理教育を強化する。</li> <li>・施設整備の推進について 「吉備みらい研究所」の構想の中に、収蔵物の保管、展示、研究、教育の礎となり、かつデジタルミュージアムなど、高度で社会的な多機能な備えた博物館の設置を織り込む。</li> <li>・法令遵守の徹底について 法令遵守を徹底するよう、文書等で喚起する。</li> <li>・その他</li> <li>・</li> </ul>	<p><b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部局運営体制の改善強化について 大学院の委員会構成を見直し、現在の業務構造に対応した機動力の高い委員会へと再編した。国際交流委員会と東アジア国際協力・教育研究センター運営委員会を、委員を共通にして合同開催とし、機能統合を進めた。研究推進を担っていた委員会に地域交流の機能を加え、研究交流推進委員会とした。</li> <li>・部局組織の活性化について 新たな潮流の創出に携わるワーキンググループを設け、活発な議論と豊かな発想を共有する場として、創意工夫を促した。改組における教育プログラムの実質化と、改組後のさらなる改革を構想するため、改組WGを「改革WG」と発展的に改めた。「新研究所WG」を設置し、「文明動態学研究所」構想を立案した(資料②-1-4)。</li> <li>・ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について ウーマンテアトラック制度を2件運用し、2件の公募準備を進め、ダイバーシティの推進を図った。改組における国際化の推進を具現化する過程で、国際社会専攻をたて、英語プログラムを設けた(資料①-3-1)。そして、外国人教員による授業や外国語による授業を充実させ、外国人教員を増やす計画と運動させた。</li> <li>・効率的・戦略的な予算配分・執行について 改組案に織り込まれた教育プログラムの準備のため、研究科内に公募型助成金を設置した。国際化対応の広報戦略として特別予算を設け、入試の募集要項を英語化し、HPの英語化の推進をはかり、改組で新設される英語プログラムに関する英文パンフレットを制作した。</li> <li>・安全衛生に対する配慮について 本学で新たに作成された海外留学における危機管理マニュアルを利用して、海外に派遣する大学院生の危機管理教育を強化した。同マニュアルを東アジア国際協力・教育研究センターに常置して、留学相談など学生指導に活用し、同センターのニュースレターや掲示、配布によって利用を呼びかけた。</li> <li>・施設整備の推進について 「文明動態学研究所」の構想の中に、収蔵物の保管、展示、研究、教育の礎となる、高度で社会的な多機能を備えた博物館の設置を盛り込んだ(資料②-1-4)。</li> <li>・法令遵守の徹底について 法令遵守を徹底するよう、学系単位で研修等を実施した。</li> </ul>
<p><b>④-2 全学の組織目標との関連</b></p> <p>1⑧効率的かつ戦略的な予算配分と経費削減、1⑩創造的学部・岡山大学」の形成に向けた施設整備の推進、1⑪法令遵守の徹底、2企画・総務②ダイバーシティの推進、2企画・総務③組織の活性化、2社会貢献・国際③派遣学生及び受入留学生を対象とした危機管理意識の向上、2大学改革①大学改革の着実な実施</p>	<p><b>④-2 大学全体への貢献</b></p> <p>改組計画(資料①-3-1)と新研究所構想(資料②-1-4)により、2大学改革①大学改革の着実な実施、2社会貢献・国際化、1⑧効率的かつ戦略的な予算配分と経費削減を進め、1⑩創造的学部・岡山大学」の形成に向けた施設整備の推進と、2企画・総務②ダイバーシティの推進に貢献した。あわせて組織を見直すことにより、2企画・総務③組織の活性化をはかった。研究科付施設である東アジア国際協力・教育研究センターの活動と連携させて、③派遣学生及び受入留学生を対象とした危機管理意識の向上を前進させた。学系と連携して、1⑪法令遵守の徹底をはかった。</p>
<p><b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>委員会編成数、改組ワーキンググループ・吉備みらい研究所ワーキンググループの構成と開催回数、ウーマンテアトラックのポスト数とレビュー審査件数、女性教員の採用数・在籍数・比率、外国人教員の採用数・在籍数・比率、外国語による授業数・比率、外国語による授業を組み込んだプログラム内容と履修モデル、研究科内教育助成金の募集要項・応募数・採択数、危機管理マニュアル、危機管理教育の機会、博物館構想の図解、法令遵守の方針を周知する文書</p>	<p><b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <p>改組・改革ワーキンググループは7名で8回、新研究所ワーキンググループは9名で21回開催。ウーマンテアトラックは2名任用中、2件公募準備中。女性教員の比率は約23%、外国人教員の比率は約7%。外国語による授業数(%)は、博士前期課程で日英併用12(3.3)、英語9(2.5)、ドイツ語6(1.7)、フランス語10(2.8)、中国語2(0.6)、韓国語2(0.6)、学生により日本語または英語4(1.1)で、合計45(12.5)。博士後期課程で日英併用3(0.8)、ドイツ語3(0.8)、フランス語3(0.8)、学生により日本語または英語14(3.9)で、合計23(6.4)。国際専攻と英語プログラムの内容は、入試募集要項に掲載(資料①-3-1)。研究科内教育助成の採択数は3件。</p>
<p><b>【総括記述欄】</b></p>	